

令和4年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

「主体的・対話的に取り組む保健体育学習の創造」
 ～「単元のゴールの姿」を設定した授業づくりを通して～

2 研究経過

第1回	第2回	第3回	第4回
期日 6月6日(月)	期日 10月20日(木)	期日 11月17日(金)	期日 1月26日(木)
人数 17人	場所 嘉島中学校	場所 御船中・御船スポセン	人数 14人
場所 益城中学校	授業者 黒田 渚	授業者 一門 翔 田代 洋輝	場所 益城中学校

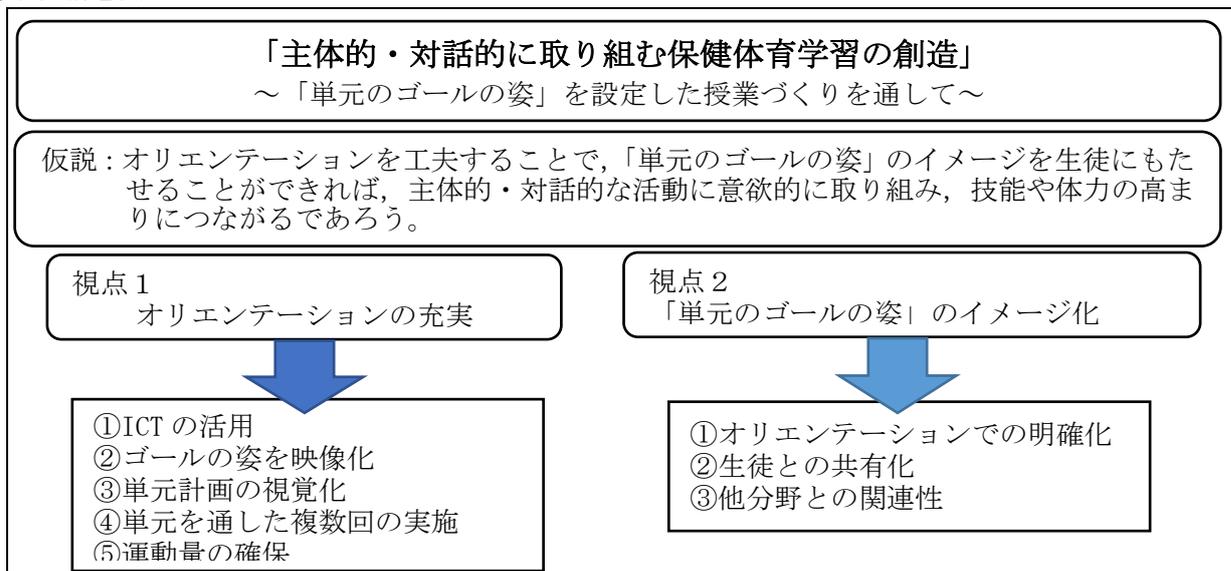
3 研究の概要

(1) 研究の内容

①主題設定

豊かなスポーツライフの素地の育成のためには、生徒が「楽しい」と思える授業の在り方が重要である。そのためには、先行研究や生徒のアンケートからも明らかになっているように、授業の中で「できた」「わかった」「友達と交流しながら活動した」という経験が大事になる。また、生徒が主体的に取り組むことができるようにするため、授業に見通しをもって取り組むことが特に重要ではないかと考えた。そこで、『単元のゴールの姿』を設定した授業づくりを通して」というサブテーマを掲げ、本研究に取り組むことにした。

②研究構想図



(2) 成果と課題

①研究の成果

- 複数のオリエンテーションの位置付けを明確にすることで、指導内容が精選され、教師も生徒もわかりやすい授業が展開できた。
- 話し合いの場面で、キーワードやポイントが飛び出し、話し合い活動の充実につながった。
- 2回目のオリエンテーションの位置付けを意識したことで、指導内容に修正を加えることが容易になった。

②研究の課題

△運動が得意な生徒は、「体育＝体を動かす」時間という意識が強く、オリエンテーションの時間は物足りなさを感じていることがあった。

△内容の精選をしっかりとっておかないと、説明に時間がかかり、運動の時間が十分確保できないことがあった。

4 実践事例

(1) 授業の概要

①オリエンテーションの充実

ア ICTの活用

生徒が視覚的にわかりやすいように、テレビやプロジェクターを利用してオリエンテーションを行った。また、技能のイメージがつきやすいように、動画の視聴を行った。動画に関しては、オリンピックのものや中学生の映像など、生徒の技能等の状況に応じて変更した。



イ ゴールの姿のイメージ化

単元の終わりに目指す姿を、学習指導要領を読み込み、学習指導要領の言葉をそのまま使うのではなく、生徒が理解しやすいような言葉を使って示した。また、実際の動画を用いて、何ができるようになるのか、生徒がイメージしやすいようにした。



ウ 単元計画の視覚化

単元計画を提示することで、いつ、何をするのか、めあてや技能のポイントなどを示した。また、オリエンテーションで画面に出すだけでなく、活動場所に掲示したり、学習カードに載せたりして、生徒がいつも先を見通して活動できるようにした。



エ 複数回実施

単元の1時間目と単元途中で複数回オリエンテーションを行った。1回ごとの内容を精選して時間を短くすることで、運動の時間を確保した。どのタイミングで、どのような内容を指導するかなどの工夫をしながらオリエンテーションを実施した。

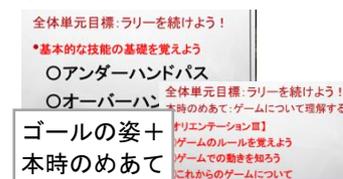
オ 運動量の確保

オリエンテーションを分けることで、内容を精選し、オリエンテーションにかかる時間を減らした。そうすることで体を動かす時間を確保できるようにした。

②単元のゴールの姿のイメージ化

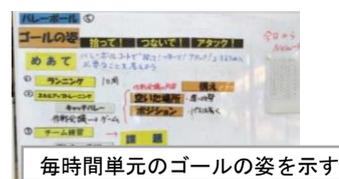
ア オリエンテーションでの明確化

オリエンテーションで必ずゴールの姿を提示するようにした。また、複数行う場合にも単元のゴールの姿を位置付けて、そのための単元計画であることを強調した。



イ 生徒との共有化

生徒が単元の目標をわかりやすくするため、生徒目線でのゴールの姿を設定するようにした。また、常にゴールの姿を示し、達成のための毎時間のめあてであること、めあてとゴールの姿が関連していることを説明しながら毎時間の授業を行った



ウ 他分野との関連

実技の種目だけでなく、体育理論や保健分野との関連を図りながら授業を行うことで、総合的に実生活で日常的に運動に親しむことができるようにした。例えば、体育のウォーミングアップ時に、体育理論で生徒が考えたメニューを採用して、行い方や回数、目的などを生徒が説明し、全員で行った。



エ オリエンテーションの位置づけ

- 再確認…授業のルールや技能のポイント、キーワードなど、これまで学習の再確認
- 再発見…友達のよさやできているところ、「こうすればよかったんだ」ということの再発見
- 再構築…前半部分でうまくいかなかったルールやチーム編成などの再構築
- 再出発…ゴールの姿をもとに、意欲向上のきっかけを作る再出発

(2) 学習構想案 (本時の学習のみ掲載)

① 体づくり運動 (御船中学校 3年 一門 翔教諭)

本時の学習 (4 / 7 時間)

(1) 目標

「家庭でできる運動」に着目し、4つの視点から考えた運動プログラムを設定している。(思考・判断・表現)

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	8分	1 課題をつかむ (1) あいさつ、健康観察 (2) 本時の学習の流れを確認する。 (3) 体ほぐしの運動 (4) めあてを確認する。	○健康状態を十分把握する。 ○単元全体の学習課題を確認し、家庭で取り組む運動プログラムを立てることに学習することを確認する ○音楽のリズムに乗って、心と体を弾ませるようにする。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【めあて】 家庭でできる、自分に応じた運動プログラムを作ることができる。 </div>	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【学習課題】 4つの視点を踏まえて、自分に応じた家庭でできる運動プログラムを作ろう。 </div>	○する人 (計画を考える人、実際にやってみる人)、見る人 (観察)、支える (教え合う) といった関わり方を考えて活動するよう促す。
展開	34分	2 オリエンテーションⅡ (1) 単元のゴールの姿の確認 (キーワード: 継続性) (2) 「家庭でできる」ことの確認 (3) 4つの視点を示し、プログラムを立てる方法を確認し、作成する。 ①ねらいは何か ②いつ、どこで、だれと運動するのか ③どのような運動を選ぶのか ④どの程度の運動強度、時間、回数、頻度で行うか ◇健康に生活するための計画を立てたい。 ◇家にある○○使ってみよう。	○オリエンテーションⅡを通して、単元のゴールの姿を再確認させ、本時からさらにゴールの姿に近づくイメージを持たせる。 ○単元のゴールを再確認する中で、特に「継続性」に着目させ、家庭で行う必要性を感じさせる。 ○4つの視点をスライド及び学習カードで確認する。 ○「家庭でできる」という部分から、取り組みやすい運動や継続しやすいプログラムを立てる意識をもたせる。
		3 課題の解決に向けて活動する。 (1) 実際にプログラムを作る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【具体的評価規準】【思①】 ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定している。 (学習カード) </div>
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【期待される学びの姿】 自分や友達のねらいに応じた運動プログラムを、家庭で行うことを考えながら計画し、友達とともに、心と体をほぐし、運動の楽しさや心地よさを味わいながら実際にやってみる姿。 </div>	
		(2) 各グループの中の一人のプログラムを実際に試してみる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【到達していない生徒への手立て】 ○個別に4つの視点を確認し、自分のねらいに合っているか、家庭でできるかを確認する。 ○グループの一人の計画を実際に試したり撮影したりすることで、終わった後の話合いが活発になるようにする。 ○話し合った中身 (アドバイス) をプログラムの見直しに生かし、よりよいものになるよう、声かけをする。 </div>
		(3) 試した感想や課題、プログラムの見直しを行う。	
終末	8分	4 めあてに対する振り返りをする。 (1) 今日の学習をまとめる。	○ホワイトボードで示し、全体で確認する。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【まとめ】 自分に応じた、「家庭でできる」運動プログラムを作るためには、4つの視点を意識しするとよい。 </div>	
		(2) 学習の振り返りを行う。 (3) あいさつをする。	○「家庭でできる」や「継続的にできる」といったことを振り返りで発表させ、全体共有をする。 ○生徒の体調を確認し、安全に留意させる。

②バレーボール（益城中学校2年 田代 洋輝教諭）

4 本時の学習（5／10時間）			
(1) 目標 得点に結びつけるために、チームの課題に気づき、課題解決を目指した作戦を考える。（思考・判断・表現）			
(2) 展開			
過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	8分	1 課題をつかむ (1) 健康観察 (2) 前時の学習の確認と本時の学習の流れ確認	○健康状態を十分把握する。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">【めあて】課題解決を目指した作戦を考えることができる。</div> (3) 準備運動・体力アップトレーニング	○これまでの学習を振り返りながら、本単元の見通しを持たせる。 ○バレーで高まる体力を理解し、自ら考案した種目を行うことで、体育理論との関連を図る
展開	32分	2 オリエンテーションⅡ (1) 単元のゴール、個人目標の確認	○単元のゴールの姿がイメージできるように、ゴールまでの目標を二分化して提示する。 ○「味方につなぐ」ことから「チームでの連携」に視点を切り替えていくことに注目させる。 ○これまで撮影した動画を見せることで、技能のポイントの確認や上達が実感できるようにする。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【学習課題】 得点に結びつける攻防を展開するために、チームでの連携で足りていないところ、必要なことは何だろうか。それぞれの役割について考えよう。 </div> (2) 課題解決を目指したチームミーティング ◇サーブで相手がいない位置をねらおう ◇大きな声で、声をかけ合おう ◇安定したトスを上げよう ◇相手の正面には返球しない ◇味方のカバーをする <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【期待される学びの姿】 動画の分析、これまでの学習を振り返りながら、得点に結びつける攻防について意見を出し合い、作戦を考えていく姿 </div> (3) 試しのゲームを行う ・実態に応じてルールや場の工夫をする ・5分×2セット ・セット間で、ミーティング内容の確認をする	○分析した個人のWSを持ち寄り、互いの考えを伝え合いながら現段階でのチームの作戦を立てさせる。 ○「ボール操作」だけでなく「ボールを持たないとき」の動きにも注目させ、シートに書き込ませる。
終末	10分	3 めあてに対する振り返りをする。 (1) 今日の学習のまとめをする	○連携が上手くいっていたチームに、作戦を紹介させる。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">【まとめ】得点に結びつける攻防には、空いた場所を狙ったりカバーしたりするなどの作戦が立てられる。</div> (2) 学習の振り返りを行う ・WSに本時の振り返りと自分の単元の目標を記入する (3) あいさつをする	○グループの作戦と実際の動きについて振り返らせ、次時の課題が見通せるようにする。 ○生徒の体調を確認し、安全に留意させる。